

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち			
施策	番号	5	名称	河川環境の整備と維持			
主担当部	まちづくり部		主担当課	道路河川課		部長名	福角 幸生
関係部			関係課				

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	既に改修済みである準用河川の適切な維持管理、及び水路改修による浸水被害の解消に努め、市民が安全で安心して暮らせる河川環境を目指す。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	近年の気候変動による集中豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加による浸水被害の解消、及び排水不良による滞泥や悪臭等の改善等、水路の改修要望が非常に多い。	大和川流域に関わる市町村・県・国が一体となって、大和川水系の総合的な治水対策の確立や万葉の清流を復活すべく水質の回復を目指している。
これまでの成果	浸水対策・環境改善ともに、施策の実施に伴い着実に成果を挙げている。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標年度)	備考欄
		実績	目標	実績	目標	目標	目標	
指標の推移	施策指標① (成果指標) 公共下水道(雨水)計画区域整備率	46.10%	46.10%	46.16%	46.25%	46.35%	46.50%	
	施策指標② (成果指標)							
	施策指標③ (成果指標)							
	施策指標④ (成果指標)							
	施策指標⑤ (成果指標)							
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 (直接事業費)(a)		130,280	160,363	159,695	180,342		
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0		
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	12,013	15,000	27,150	55,000		
	(a) - (b) = 一般財源		118,267	145,363	132,545	125,342		
	正職員	従事者数 (単位:人)	7.65	8.60	8.90	7.95		
		人件費(c)	47,216	55,900	57,850	51,675		
トータルコスト (a) + (c)		177,496	216,263	217,545	232,017			

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の成果の達成度かどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の可能性かどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	水路の改修要望が多いなか、浸水対策及び排水不良の改善等着実に整備は進捗しているが、ゲリラ豪雨や都市化に伴い、今後更に河川環境の悪化が見込まれるため、成果向上の可能性は充分にある。				
	市政全般に対する貢献度かどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	「快適な生活を育むまち」を実現するにあたり、河川環境の整備は生活環境の向上に不可欠なものであるため、貢献度は非常に高い。				

6. 施策の課題

この施策の課題	幹線水路の整備により概ね浸水被害は解消されてきたが、近年の気候変動による局地的な集中豪雨や都市化に伴い雨水流出量が増加している傾向があるため、更なる浸水対策が必要である。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	ゲリラ豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加や既存水路の老朽化により、今後更に河川環境の悪化が見込まれるため、職員を増員し、施策を強化する必要がある。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	浸水対策や環境改善を担う公共下水道事業、排水路整備事業は拡大すべき事業である。また、河川機能の維持や活用のため、河川維持補修事業、河川改良事業は継続して実施する必要がある。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)					施策評価		
NO.	課名、事務事業名及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及びH26決算額		貢献度	方向性	優先度(ソフト任意)
1	道路河川課	準用河川の管理堤を計画的に整備する。	1	継続する	b	継続する	
	河川改良事業 (ハード)		3,802 (千円)				
2	道路河川課	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消するため、概ね10年に1回の大雨に対応できる水路改良を行う。	1	継続する	a	継続する	
	公共下水道事業 (ハード)		33,993 (千円)				
3	道路河川課	市内の水路全般において、水路改修や排水管の清掃など維持管理に努めながら排水機能を高め、浸水対策や環境の改善を図る。	1	継続する	a	継続する	
	排水路整備事業 (ハード)		113,741 (千円)				
4	道路河川課	準用河川や雨水貯留施設の機能の維持や安全対策が必要とされているため、堆積土砂の浚渫(しゅんせつ)や除草、または防護柵の設置等適切な維持管理を図る。	1	継続する	b	継続する	
	河川維持補修事業 (ハード)		8,159 (千円)				

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年 5月 21日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	河川改良事業										
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課	課長名	片木幹夫					
	総合計画の 位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち								
		施策	5	河川環境の整備と維持								
	予算事業名	河川改良事業費										
	事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度				
	対象											
	事業の 目的	河川の管理堤を整備し、市民の安全で、かつ安心して暮らせる河川環境を目指す。			事業の 内容説明 (全体計画)	準用河川の管理堤を計画的に整備する。						
	妥当性 評価	なぜ市が 関与して いるのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与 の必要性を 評価してく ださい	やめた 場合の 影響は	説明										
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い						
説明												
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)		
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標											
	活動指標①	進捗率(整備件数/要整備件数)			100%	100%	100%	100%	100%	100%		
	活動指標②											
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算				
		歳出(直接事業費)(a)			3,778	4,021	3,802	3,636				
		歳入 (b)	受益者負担額									
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)									
		(a) - (b) = 一般財源			3,778	4,021	3,802	3,636				
		正職員	従事者数(単位:人)			0.55	0.90	0.90				0.65
			人件費(c)			3,395	5,850	5,850				4,225
		トータルコスト(a)+(c)			7,173	9,871	9,652	7,861				
	単位当 りコスト	計算式等 ()/()										
	備考 (これまでの 実績等)											

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	1	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない			
			説明	準用河川の管理堤の整備を予定通り遂行できた。					
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない		
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。								
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する		課内優先度	
			説明	準用河川の管理堤を整備し、市民の安全で、かつ安心して暮らせる河川環境を目指す。					

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年 5月 21日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業

PLAN 計画	事務事業名	公共下水道事業										
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課	課長名	片木幹夫					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち								
		施策	5	河川環境の整備と維持								
	予算事業名	浸水対策下水道事業費										
	事業の開始年度	昭和	42	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度				
	対象											
	事業の目的	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消し、市民が安全で安心して暮らせる生活環境を目指す。		事業の内容説明(全体計画)	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消するため、概ね10年に1回の大雨に対応できる水路改良を行う。							
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明										
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い						
DO 実施	指標の推移	名称及び単位等			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度 (総計目標)		
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標											
	活動指標①	公共下水道(雨水)計画区域整備率			46.1%	46.2%	46.2%	46.3%	46.4%	46.5%		
	活動指標②											
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算				
		歳出(直接事業費)(a)			15,164	43,000	33,993	62,500				
		歳入(b)	受益者負担額									
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			12,013	15,000	27,150				55,000
		(a) - (b) = 一般財源			3,151	28,000	6,843	7,500				
正職員		従事者数(単位:人)			1.90	2.00	2.00	2.05				
		人件費(c)			11,727	13,000	13,000	13,325				
トータルコスト(a)+(c)			26,891	56,000	46,993	75,825						
単位当たりコスト	計算式等 ()/()											
備考 (これまでの実績等)												

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	通行規制について地元との調整に不測の日数を要したため。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度	
修正行動			4 完了する				
			説明	近年の気候変動による集中豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加により、緊急的な災害対応等が見込まれるため、従事者の増員や予算の確保が必要となる。また、事業の目的を早期に達成するため、継続して重点的な整備を行う必要がある。			

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年 5月 21日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	排水路整備事業									
	担当部名	まちづくり部		担当課名	道路河川課	課長名	片木幹夫				
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち							
		施策	5	河川環境の整備と維持							
	予算事業名	下排水路管理費									
	事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度			
	対象										
	事業の目的	排水路の整備・改修により、市民が安全で、かつ安心して暮らせる生活環境を目指す。		事業の内容説明(全体計画)	市内の水路全般において、水路改修や排水管の清掃など維持管理に努めながら排水機能を高め、浸水対策や環境の改善を図る。						
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)								
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明									
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		25年度	26年度		27年度	28年度	29年度(総計目標)		
				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標										
	活動指標①	進捗率(整備箇所数/要整備箇所数)		71.4%	100%	86.6%	100%	100%	100%		
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			103,226	103,778	113,741	104,642			
		歳入(b)	受益者負担額								
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								
		(a) - (b) = 一般財源			103,226	103,778	113,741	104,642			
正職員		従事者数(単位:人)			4.60	4.45	4.75	4.00			
		人件費(c)			28,391	28,925	30,875	26,000			
トータルコスト(a)+(c)			131,617	132,703	144,616	130,642					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考(これまでの実績等)											

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	2	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない	
			説明	従来の生活環境の向上、近年における都市化や集中豪雨等の緊急対策を図るため、地元からの要望も高く増大しているが、順次計画を行い改善・整備を図っている。			
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください			1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない
			説明				
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。						
	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	課内優先度	
修正行動		説明	4 完了する	事業の目的達成や緊急対策の対応のため、事業の継続性が必要である。また、早期対策が図られるよう予算の確保及び従事者の増員が必要である。			

事務事業評価表(平成26年度実施事業対象)

(作成日:平成27年 5月 21日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ハード) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	河川維持補修事業										
	担当部名	まちづくり部	担当課名	道路河川課	課長名	片木幹夫						
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	7	快適な生活を育むまち								
		施策	5	河川環境の整備と維持								
	予算事業名	河川維持補修費										
	事業の開始年度	平成	—	年度	事業の終了予定年度	平成	—	年度				
	対象											
	事業の目的	準用河川の適切な維持管理を図り、市民が安全で安心して暮らせる河川環境を目指す。		事業の内容説明(全体計画)	準用河川や雨水貯留施設の機能の維持や安全対策が必要とされているため、堆積土砂の浚渫(しゅんせつ)や除草、または防護柵の設置等適切な維持管理を図る。							
	妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明										
			1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い						
説明												
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			25年度	26年度		27年度	28年度	29年度(総計目標)		
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み		
	成果指標											
	活動指標①	進捗率(整備件数/要整備件数)			100%	100%	100%	100%	100%	100%		
	活動指標②											
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算				
		歳出(直接事業費)(a)			8,112	9,564	8,159	9,564				
		歳入(b)	受益者負担額									
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)									
		(a) - (b) = 一般財源			8,112	9,564	8,159	9,564				
正職員		従事者数(単位:人)			0.60	1.25	1.25	1.25				
		人件費(c)			3,703	8,125	8,125	8,125				
トータルコスト(a)+(c)			11,815	17,689	16,284	17,689						
単位当たりコスト	計算式等 ()/()											
備考(これまでの実績等)												

CHECK	進捗状況	目標(計画)どおり進んでいるか	1	1 予定通り	2 概ね予定通り	3 達成できていない			
			説明	準用河川等の機能の維持及び安全対策共に、予定通り遂行できた。					
評価	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか		1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください		説明						
				1 効率がよく、これ以上の改善は見込めない	2 効率がよいが、さらに改善できる余地はある	3 効率が低く、改善が必要	4 効率が低い、改善が見込めない		
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。								
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する		課内優先度	
			説明	準用河川等の機能の維持及び安全対策のために、今後も継続する必要がある。					